

令和 7（2025）年度 家庭養護促進協会 事業計画 — 神戸事務所 —

I 新聞とラジオによる里親を求めるキャンペーン

神戸新聞の月曜日朝刊くらし面「あなたの愛の手を」のコーナー、ラジオ関西の日曜日の番組「里親さがし」（朝 6 時から 5 分間）で里子候補児童の紹介を行う。現在、第 1 週、2 週、3 週の掲載となっており、養育里親、養子縁組里親、週末里親を求める児童が主に紹介されている。愛の手のカラムには「事務局から」のコーナーを設け、職員が交代で執筆している。掲載児の委託が遅いとの指摘が以前からあり、早く候補者の推薦ができるように検討していく。ラジオ関西の「里親さがし」は新聞休刊日や不掲載で、紹介する候補児童がいない週については、里親制度や協会の活動についての情報を提供し、12 月には 3 回にわたって里親の養育経験を番組で紹介している。

II 里親希望者のための研修

（1）登録のための研修

（イ）養育里親・養子縁組里親基礎研修（講義と実習）

養育里親を希望する人たちを対象に「基礎研修」を年 5 回、午前 10 時半～午後 3 時に次のような日程で開く予定。

講義編は養護児童の現状や里親制度の役割、親と離れて暮らす子どもの気持ちなどについて、パワーポイントや DVD などを使った 1 日のプログラムとなっている。

なお、但馬地区里親会からオンラインでの受講希望が以前からあり、2023 年度から若草寮にサテライト会場を置き、基礎研修の講義を実施している。2025 年度も複数家庭の参加希望があれば、サテライト会場を用いての研修を行う予定。

施設実習は 2 か所の施設で午前中 2 時間を予定している。

講義の日程 <神戸> 2025 年 4 月 19 日(土), 6 月 24 日(火), 8 月 23 日(土)
10 月 9 日(土)
<明石> 2026 年 1 月未定

（ロ）養育里親・養子縁組登録前研修（講義と実習）

基礎研修を受講した養育希望者を対象に、2 日間の講義と 2 日間の養育実習を年 4 回、次のような日程で実施する予定。講義と実習の修了者にはレポートを提出後、協会から修了証を交付する。今年度より県下の里親支援センターでそれぞれ研修を実施する所と、協会に研修を委託する所があり、受講者は減少する見込み。神戸市と明石市は従来通り協会へ委託をして実施する。

なお、養育里親登録者が養子縁組里親の登録をする場合、兵庫県と神戸市、明石市においては登録前研修 2 日目の午後に 1 時間余り「養子養育と養子縁組制度」の講義を受講することが必要になり、そのための講義を 2025 年度も実施する。

講義の日程

<神戸> 2025 年 5 月 31 日(土), 6 月 1 日(日) 神戸市立総合福祉センター
<姫路> 9 月 姫路会場 日時未定
<神戸> 11 月 21 日(金), 22 日(土) 神戸市立総合福祉センター
<明石> 2026 年 3 月 場所・日時未定

(2) 養子縁組を希望する人への研修

「養子を育てたい人のための講座」

養子縁組を希望する「愛の手運動」への申込者だけでなく、それ以外に養子縁組を希望する人たち、情報を得たいと希望している人を対象に、年3回の講座を開く。兵庫県と神戸市、明石市の養育里親登録者で養子縁組里親登録も希望する人たちは、登録前研修の2日目の講義「養子養育と養子縁組制度」を、この講座の受講により代替することができ、養子縁組里親としての登録が可能となっている。

第1回	2025年	7月5日(土)	神戸市立総合福祉センター
第2回	2025年	10月	宝塚市(予定)
第3回	2026年	3月	姫路市(予定)

Ⅲ 里親家庭のための研修・交流等の支援

(1) 更新に関する研修

更新研修(講義及び未委託里親への実習)

里親の再認定のための更新研修が5年ごとに行われることが決められており、兵庫県と神戸市、明石市から委託を受けて当協会が以下のような日程で更新研修を実施する。この更新研修でも、養子縁組里親の登録を希望する人は、1時間の養子縁組についての講義を受講することが必要。

第1回	2025年	6月14日(土)
第2回	2025年	9月6日(土)
第3回	2026年	1月予定

なお、5年間に子どもとの交流や受託のない未委託里親には1日の施設実習が必要となっている。

(2) 里親家庭のための研修

「真実告知研修会」

毎年3月に開催している「真実告知研修会」を、2025年度も3月に開催を計画したい。真実告知については関心も高く、テーマについては受講者のアンケート等を参考にしながら考えたい。

(3) 里親家庭の交流やレクリエーション活動

(イ) 第54回ぽんぽこキャンプの開催

新型コロナウイルス感染防止のため、従来と同様には実施できなかった「ぽんぽこキャンプ」を昨年は5年ぶりに2泊3日で大阪府少年自然の家で開催した。キャンプはレクリエーションとしてだけではなく里親相互や研修、情報交換や先輩のリーダーから次世代の子どもたちへグループワークの知識や知恵を伝えていく大切な機会にもなっている。

今年は下記のキャンプ場で開催予定。

日 時 2025年8月8日～8月10日(2泊3日)

場 所 福井県立奥越高原青少年自然の家(福井県大野市)

(ロ) 新春初笑い大会の開催

毎年1月の第2日曜日に開催している里親家庭相互の交流会で、夏のキャンプとともに、里親家庭が交流し、親睦を深めることのできる機会となっている。数年前から会場を長田区文化センターで開催している。2025年度は下記の日程で計画している。

日 時 2026年1月11日（日）
場 所 神戸市立長田区文化センター（予定）

（４）里親子のための子育て支援プログラム「里親サロン」の開催

里親支援事業の1つとして、子どもを養育中の里親を対象に、毎月1回、親と子が気軽に集まり子育ての話や情報の交換ができる「里親サロン」を、例年通り毎月第3木曜日に開く予定。また週末の開催も計画している。春休みや夏休みの野外レクリエーションやクリスマス会には多くの親子が参加している。

（５）グループぽんぽこの活動

中学生・高校生の里子や養子を中心に、大学生や社会人も加わったグループである。毎年新しく中学生になった子どもたちがメンバーに加わってくるが、その子どもたちを加えたグループづくりをすすめ、夏のキャンプや冬の初笑い大会等の行事を中心に企画をたて、中・高校生の里子やボランティアの育成を行っていきたい。

また、大阪教育大学から学生の実習先として協会の活動を希望する学生が2名あり、ぽんぽこキャンプにボランティアとして受け入れている。

Ⅳ 季節・週末里親の促進事業（NHK 歳末たすけあいへの申請予定）

（１）「季節里親・週末里親の募集と説明会」

児童養護施設などの入所児童と夏休み、冬休み、また週末等に定期的に交流を続けるボランティアの里親を開拓・育成するため「季節里親・週末里親の募集と説明会」を11月に開く。

日 時 2025年11月2日（土）午後
場 所 神戸市立総合福祉センター

（２）ボランティア里親と子どもたちとのマッチングと交流

季節里親は主に夏休み、冬休みの長期の休みに、週末里親は土曜日、日曜日の週末に施設の子どもたちを家庭に迎えて交流しており、そのマッチングや交流のコーディネートは協会で行っている。愛の手掲載児童も週末里親の候補児童が多くなっており、2025年度も年間を通してボランティア里親の活動をすすめていく。

（３）ボランティア里親交流会の開催

季節・週末里親として子どもたちと交流を続けている人たちの情報交換・学びの場として交流会を開催し、ボランティア里親、施設職員がよりよい活動ができるようなプログラムを考えたい。2025年度も2026年2～3月に開催予定。

Ⅴ 専門里親研修

専門里親を希望する里親がいれば、2月～3月頃に7日間の施設実習を行う。実施施設として、児童心理治療施設、児童養護施設、知的障害児施設等での実施をしている。兵庫県下の里親支援センターでは今年度より実施する予定だが、実施できない地域の里親に対しては協会で実施する。神戸市と明石市については従来通り協会で実施する。

Ⅵ 子育て支援事業

（１）子育てサポートグループ「ぼちぼち」

不登校や発達障害、思春期から青年期のつまずきなど、さまざまな困難な状況にある子どもと家族の相談、支援を継続して行う。

（２）親子スポーツチャンバラ教室「スポチャンくらぶ」

発達障害のある子どもを対象にした親子スポーツチャンバラ体験を開催している。2025年度も2か月に1度の開催を予定している。

講師：横山裕行さん（Total Budo Gym 武道 松朗館 代表・柔道整復師）＊
日時：奇数月の第2日曜日 10時～11時半
会場：神戸市立障害福祉センター 体育室

Ⅶ 里親・養子縁組相談支援事業

妊娠や出産に不安や迷いがあって悩んでいる妊婦や家族に対してカウンセリングを行い、出産しても将来の養育が困難な場合は、里親制度や養子縁組の情報を提供し、支援を行う「里親・養子縁組相談事業」を兵庫県の補助金を受けて、継続して実施する。2024年度は2回目の第三者評価を受審した。

Ⅷ 「あかし里親センター」の業務の受託

（１）広報・啓発

「あかし里親100%プロジェクト」を掲げ、市内全小学校区での里親登録、就学前要保護児童の100%里親委託を目指している。現在市内28校区中、24校区に登録里親がいる。里親センター開所から6年になるが、里親登録数は79家庭となり、約3倍の増加となっている。

（イ）チラシ配布等

- ・企業、団体、地域等への啓発 200ヵ所配布予定
- ・自治会回覧 年2回予定 11000枚×2回

（ロ）里親相談会（毎月1～2回開催、計14回）

毎回、明石市の里親が同席し経験談を話し、また相談者の質問に答えながら意見交換をする。参加者が質問や相談をしやすい環境で開催できるようにしている。

（ハ）ボランティア里親入門講座（年間2回開催）

及び、ショートステイ里親説明会の開催（年間3回開催）

（ニ）あかし里親パネル展&チャリティーバザー（年間2回開催）

- (ホ) 里親カフェ・出前講座の開催
- (ヘ) SNSでの広報（インスタグラム、ツイッター）

(2) 相談業務

電話、メール等による相談、来所者の面談

(3) 里親支援

- ・里親向け研修会「あかし里親カレッジ」（年数回開催）
「里親カレッジ」・・・明石市の里親登録者を対象とした勉強会。
里親が学びたいことをアンケートで募り、講師を迎えて日々の里親養育に活かしていけるように希望者を対象に勉強会を開催。
- ・里親家庭への訪問 ・養子縁組家庭への訪問
- ・未委託里親の施設実習

(4) 関係機関との連携

Ⅸ 神戸市里親会 事務局業務の受託

神戸市里親会の事務局の業務を受託して5年になる。2025年度も引き続き委託業務を行っていく。

X 里親支援センターの検討

神戸市は里親支援センターも含めて今後の社会的養育のあり方について昨年度は検討会が設けられて話し合いを行った。今年度も神戸市での里親支援センターについて検討していきたい。

XI 未委託里親へのトレーニング

未委託里親の増加に伴い、子どもの委託を積極的にすすめていくために、2018年度に初めて兵庫県の未委託里親に対して「里親養育スキルアップ講座」を行った。2024年度は神戸と姫路で2回開催したが、2025年度は里親支援センターが実施すると思われるが、委託を受ければ協会で実施する。

XⅢ 里親支援にかかわるワーカーに対する研修会の開催

これまで里親支援に関わる専門職向けの研修を9回開催してきた。2025年度は秋にテーマを考えて開催したい。

XⅣ 生活資金・奨学資金貸付事業

愛の手基金を活用して無利子の「生活資金・奨学資金貸付事業」を行う。事業の対象者は、当協会の愛の手運動を通して里親に委託され、就職を目指す者や委託解除後の者で、就学や教育の支援を受けることで、自立した生活へのサポートが可能となる者としている。昨年度は1名に対して貸付を行った。

XV 啓発・広報活動

(1) 里親制度をすすめるための講演とシンポジウム

毎年、神戸市里親会との共催で開催している。市民が里親制度をより身近に、具体的に理解できるような講演会を工夫するとともに、地域を限定しての具体的な広報を検討し、新聞の折込チラシやポスティングをしてその地域に集中的に広報を行うなど、新しいリクルートの方法を考えたい。

(2) こどもの日「愛の手キャンペーン」企画

5月5日こどもの日の神戸新聞紙上で第48回目の愛の手企画キャンペーンを実施する。毎年、神戸新聞広告賞を受賞し高い評価を得ているが、昨年度は佳作に入賞。今年度も親しみやすく効果的な企画を考えたい。

(3) ホームページの充実と新しいメディアの活用

パソコンのインターネット上に協会のホームページを開設しているが、スマホ等の画面でも見やすく、協会の情報をよりよく伝えられる構成の工夫をしたい。

(4) 広報紙の発行

機関紙「はーもにい」を年4回発行予定。4年前からアメリカの真実告知の本の抄訳を連載しており、2025年度も残りの抄訳を連載予定。7月に「育てる」を発行。

(5) 愛の手パネル展とチャリティーバザー

12月に4日間（12月4日～7日）、恒例となった愛の手パネル展とバザーを開く。毎年開催しているので楽しみにして多くの方が来場。広報と収益を兼ねたイベントとして継続していきたいが、会場がこの12月で閉鎖となる予定。このイベントを継続するかどうか検討する必要がある。

(6) 里親出前講座のコーディネート

神戸市里親会が里親出前講座を実施するコーディネートを行っている。2025年度も出前講座を広報や研修の場として活用いただけるよう企画をすすめたい。

XVI 活動資金を得るための活動

(1) 神戸新聞紙上で5月5日のこどもの日に第48回目の愛の手企画キャンペーンを実施し、企業、団体、大学等へ協賛を呼びかける。

(2) 次のような他団体主催のバザーへの参加を予定

2025年5月 神戸まつりバザー

10月 しあわせの村でのバザー

12月 神戸駅南の「デュオぎゃらりー」で里親・養子縁組制度等の啓発と活動資金を募るための「愛の手パネル展とチャリティーバザー」を、12月4日（木）～7日（日）に開催。

(3) 寄付を募るための新しいパンフレットを作成し、配布

XVII その他

- ・ 4回目となる神戸市主催の「里親・ファミリーホーム交流会」を2025年度も神戸市から依頼があれば委託を受けて実施する予定。
- ・ 事務所が狭く職員も増えると動きがとれなくなること、ケースファイルの整理が必要などから、新年度に事務所のレイアウトを見直し、備品を購入して効率的な配置換えを考えたい。

◇ 大阪事務所 ◇

I. 里親開拓運動（愛の手運動）

【里親開拓に関する事業】

「愛の手」に掲載される子どもは養子希望の子どもが多いが、2021 年度より特に大阪府で週末里親を希望する児童の掲載が増え、2024 年度もこの傾向は続いた（府管轄 17 件中 10 件）。週末里親希望の子どもは、「愛の手」掲載によって希望者が出ることはあまりなく、大阪府の週末里親事業での登録家庭とのマッチングをすることで委託ができていく状況である。養子希望の子どもの場合、乳児でも申込者がなくともあり、年齢が高かったり、発達の遅れがみられたり、背景が複雑になるとより決まりにくい状況である。また、一時期よりは女兒の掲載も増えたが、まだ男児の掲載の割合が高い状況が続いている。協会から児童相談所への推薦は、2022 年度は 15 件、2023 年度は 18 件、2024 年度は 22 件になる予定である。各県の里親研修会や児相職員研修会等に講師として招かれた際に、協会への申込みについての説明や研修の紹介、案内をする等、2025 年度も引き続き里親増強対策を考えていく。

【児童相談所里親担当者連絡会の継続】

大阪の子どもを委託している全国の児相の里親担当者の連絡会、学習会をおこなっている。里親制度、養子縁組を進める中での関心事を取り上げながら、それぞれの経験を共有し、里親委託推進に向けての意見交換ができる場にしたいと考えている。終了後に、軽食を摂りながらのフリータイムを設け、講師も含めた交流や、個別での情報共有もできている。今後もこのような場は必要と感ずるため、2025 年度も実施する。（予定：11 月 30-31 日あるいは 12 月 6-7 日）。

II. 里親・里子の研修と親睦の行事について

【里親・養親のための研修】

(1) 養子を育てたい夫婦のための連続講座（養親講座）

2016 年度より、大阪府養子里親支援機関事業の委託を受けたことで、養親講座が大阪府の養子里親登録前研修に位置づけられ、6 月、9 月、12 月、3 月の連続 3 週の土曜日に開催している。2019 年度から新たに大阪市の登録前研修の一部、養子里親にまつわる講義に位置づけられた。2025 年度も同様の日程で開催する。加えて、大阪府登録前研修として「子どもの医療・救急・安全に関する研修」については別枠で日本赤十字社の職員を講師としておこなっている。

大阪府・市の登録前研修として位置づけられているため、受講時には里親登録に至っていない受講者が増えたことにより、講座受講から具体的な子どもへの申し込みに至るまでには時間がかかっている。コロナ禍の制限が緩和され、大阪府市外の参加者が増えつつある。大阪府市外の参加者はすでに里親登録ができて人であるため、具体的な子どもとのマッチングにつながるようにしていきたい。

研修日程（予定）	6 月 7 日、14 日、21 日	9 月 6 日、13 日、20 日
	12 月 6 日、13 日、20 日	3 月 7 日、14 日、21 日

(2) 養親ゼミナール

2016 年度より開催している養親を対象にした「養親ゼミナール」は、2025 年度も 3 回程度開催の予定である。「真実告知」（7 月頃）や「ルーツ探し」、「思春期」（秋頃）、「成長した養子へのインタビュー」（3 月頃）をテーマにし、引き続き開催する。「養親ゼミナール」は大阪府の養子縁組里親の課題別研修、更新研修（行政説明の講義をプラスしている）として位置づけられている。

(3) ペアレント・トレーニング

2016 年度に開催した「養親ゼミナール」を発端に、2017 年 3 月から 2019 年度まで養親向けにペアレ

ント・トレーニングをおこなった。2019 年度に古川教授を中心にした研究者グループが、文科省の科学研究費を申請し、「発達障害のある子どもの里親・養親を対象としたペアレント・トレーニングの開発」という研究が認可されたため、5 年間かけて研究に協力してきた。2025 年度もこれまでペアトレを実施した家庭のフォローアップを必要に応じて実施していく。

【親睦の行事について】

(1) ふれあいキャンプ

小学1 年生以上の子どもが参加するキャンプである。以前参加者だった大学生たちはリーダーとして参加してくれている。大阪YMCA、毎日新聞大阪社会事業団より助成をいただき、大阪YMCA の応援を受けておこなう。2025 年度は8 月半ばに海のキャンプ（YMCA 阿南国際海洋センター）を予定している。

(2) おやこDE うんどう会

親子で参加できる楽しい競技を考えている。2015 年度より、第一工芸株式会社の有志がお手伝いくださり、2017 年度からは同社との共催として開催している。11 月初旬に開催予定。

(3) JB クラブ

2006 年度に始めた里親子の交流の場「JB クラブ」を、月1 回継続して実施する。子どもと一緒に遊ぶ場にし、やがて地域での養親同士のつながりに発展するよう支援したい。

Ⅲ. 広報活動の拡大・充実

【インターネットを活用した広報】

1999 年3 月18 日に大阪事務所のホームページを開設し、26 年が経過した。より分かりやすいページになるよう、今後も改善の余地はあるため、費用対効果も含めて検討していきたい。

また、2012 年度よりフェイスブックページを開設し、毎日新聞社ホームページの「愛の手」記事欄へリンクを貼ったり、里親制度に関するイベントの広報、日常の協会活動などについて定期的な発信を心がけている。2020 年度はX（旧 Twitter）を、2022 年度はInstagram を開設した。情報紙とは違う形での広報手段となっているため、引き続き、様々な手段を用いて、広く里親制度や協会活動を知ってもらうために活用していきたい。

【広報のための企画】

里親制度について説明したリーフレットを随時増刷し、大阪府下の行政機関、公共施設、大阪府下に活動拠点を持つNPO 団体等、府民に配布する機会や場所があれば随時発送していく。新たな広報先を開拓し、引き続き里親開拓及び広報をおこなっていききたい。

(1) イベントなどでの広報活動

H2O リテイリンググループの社会貢献団体であるH2O サンタ「NPO フェスティバル」のような、以前より支援いただいている団体のイベントでのブース出展などを通じて、さまざまな場で里親制度を知ってもらう。

(2) 里親いろいろ応援団

2008 年度に立ち上げた大阪市里親施策推進プロジェクト会議の“実働部隊”として、2009 年度より活動を開始した市民ボランティア「里親いろいろ応援団」は、行政と連携しながらの里親制度周知について取り組んできた。2018 年度より、大阪市が「里親子包括支援室」を立ち上げ、プロジェクト会議は発展的に解消された。協会が事務局的作用を担い、「里親いろいろ応援団」は市民メンバーが中心となって里親制度啓発をおこなうグループとして活動することとなった。イオンでのイエローシートキャンペ

ーンや、あべのハルカス近鉄本店の縁活イベント(8月2日、12月初旬予定)でのチラシ配布やイベントでの出展などをおこなう。

【「あたらしいふれあい」の発行の継続】

大阪府共同募金会の助成を受けるべく申請中である。3300部印刷し、毎月1回の発行を継続する。血のつながらない親と子が親子関係を構築していく過程や思春期の葛藤等は、血縁親子のよりよい関係にも通じると考えられる。協会が培ってきたノウハウや養親、養子の姿を、分かりやすい形で市民にも伝え、里親制度への理解を深めていきたい。

【「育てる」の発行】

神戸事務所と一緒に機関誌を年1回発行する。個人・団体会員と里親、関係機関、施設、全国の児童相談所に送付する。

【各種リーフレットや広報物品の作成配布】

協会活動一般・「活動を支えてください」・週末里親についてのリーフレットを公共機関等に設置したり、イベント等で広報物品を配布したりするなど、協会の活動と里親制度の広報に努めたい。

これまでA4サイズのクリアファイルを作成、広報に活用してきたが、新たにA5サイズのファイルを作成する。

【愛の手街頭キャンペーン】

5月の児童福祉月間と10月の里親月間には、恒例になった大阪駅近辺での街頭キャンペーンをおこなっている。2025年度も大阪曽根崎ライオンズクラブのご協力を得て、里親制度の趣意書を付けた玩具を配布予定である。日程は5月15日(木)、10月は未定である。

IV. 活動資金の調達とPR活動

【会員の増強】

会費は協会の活動資金としてなくてはならないものであり、会員増強のため、年次総会の案内送付時に、里親や関係個人、関係機関にも、会員としての協力を呼びかけたい。2020年度に新たにリーフレット「活動を支えてください」を作成し、2023年度に修正・増刷したため、それを活用し、広くPRをおこなう。

【寄託者の増強】

2013年度より、公益社団法人となり、寄付金について寄付控除が適用されるようになった。協会使用の封筒に、寄付控除の対象団体であることを記載するなど、さらに周知に努め、新たな寄託者の開拓をおこなっていく。また、クレジットカード利用や月々の口座引き落としなどによる継続的な支援を受けられる方法について検討していく。

【書籍・絵本等の増刷、PR】

協会が発行した書籍や絵本を、協会での研修会開催時や各地の里親研修会等の講演時に紹介したり、ホームページ上でPRをし、里親や養親、関係機関への情報提供とともに、活動資金を得る。『ふたりのおかあさんからあなたへのおくりもの』は、子どもが幼い時から読み聞かせられる絵本として売れ続けている。

【各種助成金への申請】

各種助成金に申し込み、必要な経費の援助を依頼したいと考えている。

【今宮戎での福飴売り】

活動資金の調達としては、なくてはならない活動で、チラシを商品に同封し、広報活動としての効果も大きい。コロナ禍以降、人の密集による雑踏事故の危惧により、神社周辺での露店出店が中止となっている。長年ご支援いただいております、神社参道に会社のある株式会社丸大さんの敷地で、細々と福飴売りと広報活動を行った。周囲の露店が少なくなったせいか、福飴の売れ行きが良かったので、2025 年度も昨年度より多く仕入れて販売したい。1 月 9 ～11 日開催。

【キャンペーンソングの活用】

養親からシンガーソングライター松藤量平氏のクラウドファンディングでの社歌等の制作をもちかけられたことにより、協会の広報活動やイベント、交流活動などの際に使用するイメージソングを 2021 年度に完成し、啓発活動で流した。広く養親子家族を応援する曲として、「やさしい曲」「元気が出る」など好評であるため、今後も活用していく。

V. 研修活動

【職員研修の充実】

ソーシャルワーカーとしての知識や技術の向上のため、各種研修会に可能な限り参加したい。

VI. 相談事業の充実

【APCC相談室（思春期妊娠危機センター）】

1988 年 1 月に開設し、相談件数はかなり減っているが、行政の相談リーフレット等に掲載されているため、継続していく必要はある。思春期の身体に関する相談が多いが、同一人物と思われる人から継続した相談もある。

06-6761-1115 月～金曜日（祝日除く）10:00～17:00

VII. 調査研究活動

必要に応じてペアレント・トレーニングの研究に協力する。

VIII. 「ふれあいの家」活動

2016 年 7 月より、遠方在住で、子どもを迎えるための里親実習のために来阪する里親が逗留する拠点として活用している。引き続き、遠方の里親が実習中の滞在としての活用とともに、施設への里帰り訪問時の滞在場所として、活用する。

IX. 大阪府里親支援事業

2016 年 6 月より、「養子親支援機関事業」の委託を受けている。協会への委託事業としては、養子親の開拓、支援と週末里親制度運営に絞られる。内容については、以下のとおりである。

【養子縁組里親支援事業】

(1) 養子縁組里親の広報活動

「養子縁組里親」を知ってもらうための年 1 回広報啓発プログラムに加え、不妊治療クリニックでの職員向け出張説明会などを通じて連携し、養子縁組里親のターゲット層に対して、里親制度や養子縁組制度の周知に取り組む。

(2) 養子縁組里親希望者へのガイダンスと研修

児童相談所への問い合わせ、協会への問い合わせとともに養子縁組里親希望者に対してガイダンスとして行う。ガイダンス後の資料は子ども家庭センターへ提出する。登録前研修に位置づけられている「養親講座」と「子どもの医療・救急・安全に関する研修」をおこなう。

(3) センターから里親委託を要する児童の照会を受け、児童に適した里親家庭を推薦

養子縁組里親委託を要する児童について、センターからの情報を受け、適切な里親を推薦する。センターが里親を指名する場合、協会が特定の里親を推薦する場合、愛の手を活用して申込みのあった家庭を推薦する場合がある。

(4) 児童と里親の引き合わせから委託後の里親家庭への支援

マッチング後、委託に向けた初面会から外泊等の調整や評価、委託時の立会い、委託後の家庭訪問等、関係機関と連携しておこなう。委託後の里親サロンはJBクラブを活用する。

【週末里親事業の推進】

(1) 週末里親希望者への研修

週末里親希望者に対し、社会的養護を必要とする子どもを理解するため、児童養護施設にて施設見学、活動開始後に起きる具体的な問題についての研修を年1回実施する。2015年度より週末里親の体験談を取り入れており、2025年度も継続していく。

(2) 夏季および冬季2泊3日里親事業の継続

乳児院や児童養護施設に里親支援専門相談員が配置され、里親や週末里親を必要とする子どもの掘り起こしが徐々になされている。2025年度も引き続き夏季および冬季2泊3日里親事業を実施し、家庭生活が必要な子どもの掘り起こしを行い、必要に応じて週末里親につないでいきたい。

(3) 週末里親懇談会

週末里親活動としての現状や課題を把握するため、年1回の週末里親懇談会を実施する。週末里親活動をおこなっている養育里親（はぐくみホーム）にも案内を送り、参加を呼びかける。

(4) 週末里親子の交流事業

週末里親から声かけをいただき、2024年度は大阪ガスショールーム「ハグミュージアム」にて小学生から高校生の里子とその里親を調理体験および里親、里子それぞれの交流会を、里親同伴のもとレストラン内の厨房で調理体験を行う週末親子の交流事業として開催した。2024年度については、大阪東ロータリークラブ、大阪東ローターアクトの支援の協力のもと開催したが、2025年度については未定である。

(5) 研修への参加

週末対象となっている子どもは様々な課題を持っている。協会主催の研修のみならず、テーマに応じて他機関主催の研修にも参加できるよう、連携して案内する。

(6) 週末里親事業の啓発活動

里親会や子ども家庭センター、里親支援機関などが主催でおこなっているイベントや相談会に参加し、週末里親の啓発をおこなうと共に、相談者への対応、説明をする。大阪北部地域に比べ南部地域の里親希望者が少なく、南部の施設に入所する子どもたちのマッチングがスムーズに進められていない状況が続いている。南部で開催されるイベントや相談会に積極的に参加していきたい。

X. 生活資金・奨学資金貸付制度

愛の手運動を通して里親（養親を含む）に委託された子どものうち、委託解除後に、自立した生活に向けて就労の準備をしている者及び就労中の者、また、高等学校卒業後に専門学校や短期大学、大学等への進学を希望するが必要な学資を他から受けることが困難であると認められる者に対して、生活支援資金や教育支援資金を貸付ける。2021 年度に性別適合手術を必要とする養子への手術費用の貸付をおこない、順調に返済されている。利用者が少ないため、情報紙等で呼びかけ、制度について周知していく。

XI. その他の活動

- ・2019 年 5 月 13 日付で許可を受け、2022 年 3 月 24 日付更新をおこなった民間養子縁組あっせん機関として、毎年自己評価を行う。

- ・2025 年度より豊中市の児童相談所がスタート。それに伴い事業委託の話が出ているが、内容は未定である。